

たんぽぽ組だより



令和5年2月20日

ことり保育園 担当:海老澤



寒さが続くと子ども達は、ひんやりとけ:空気を

吐息の白を楽しんだりと小さな身体で季節を感じてはから過ごしています。

先日、散歩に出掛けるときのことです。「今日は寒いね。」と保育者が声を掛けると「お水固まってるかな?」と話す子ども達。「何の話をしているの?」と思い聞いていると...お地蔵様が祀られているところに水が供えてあるので「お水、その水が凍っているかな?」という話でした。歩いて行くと、「あれ!」乾燥した日が続いていたから、カラカラになっていました。子ども達は「神様飲んじゃったのかな?」とかわいらしい会話をしていました。そのまま歩いていくと、今度はどこからかにおいがしてきました。「何のにおいかな?」と近くを探すと、うすい黄色の花が咲いていて、子ども達はちゅんちゅんと触って、鼻を近づけたりして確かめていました。「いいにおい。」と言ったり、保育者が「甘いにおいがするよ。」と声を掛けると、「うん?」と不思議そうにしたり、「うん〜(これはなん?!!)」と言ったりそれぞれ反応していました。

後日、花の名前を調べると、「ロウバイ」という花でした。今後も子ども達の気づきや感性を大切にしながら保育していきたいです。

